

P-D-2

グルコサミンの変形性膝関節症に対する効果 ～ 自覚症状と単純 X 線所見について～

Effect of glucosamine on knee osteoarthritis

○ 磐田振一郎¹⁾, 長尾 淳二²⁾, 渡田 整治²⁾, 豊田 敬³⁾

1) 独立行政法人国立病院機構村山医療センター,

2) 小林製薬株式会社 研究開発カンパニー薬粧品開発部, 3) 西早稲田整形外科

We evaluated effect of glucosamine on knee osteoarthritis using some questionnaire and X-ray findings. Glucosamine might provide relief from knee osteoarthritis symptoms.

Moreover, glucosamine might effect on joint space width by ingestion over 6 months.

【目的】

グルコサミンが変形性膝関節症(膝 OA)患者の疼痛を中心とした自覚症状に有効であるとの報告が散見される。しかし、医療機関で使用されるわけではないため、臨床上的効果判定はいまだ議論の余地を残している。今回は膝 OA 患者の日常生活動作中の自覚症状および単純 X 線所見についてグルコサミンの効果を調査することを目的とした。

【方法】

対象は膝 OA 患者 18 名。これらの被験者をグルコサミン摂取、プラセボ摂取の 2 群に分け、二重盲検法で実施し、摂取期間は 1 年間とした。なおグルコサミンは小林製薬より提供を受けた。評価は自覚症状について、WOMAC Osteoarthritis Index, 膝 OA 患者の自覚症状として多く認められるイスからの立ち上がり動作、平地歩行、階段降下動作、しゃがみこみ動作での疼痛を Visual Analogue scale(VAS)にて 3 ヶ月毎に行った。単純 X 線所見については完全伸展位(膝屈曲 0°)および膝屈曲 30°で評価し、内側型 OA 患者については内側の関節裂隙間距離、外側型 OA 患者では外側関節裂隙間距離を 6 ヶ月毎に計測した。

【結果】

自覚症状の評価から、平地歩行時の疼痛については、摂取 1 年後にグルコサミン群とプラセボ群に有意差を認めた。その他の動作において、各群間に有意差を認めなかったが、プラセボ群に対してグルコサミン群では改善の傾向を認めた。単純 X 線での評価は、有意差を認めなかったが、プラセボ群は計測ごとに裂隙間距離が減少するのに対してグルコサミン群では服用半年以降では裂隙間距離が減少から増加に転じた。1 年間の試験中に、試験との因果関係は不明だが、1 例胃部不快感を訴えた例があったが、重大な副作用、合併症を認めなかった。

【結論】

グルコサミンが膝 OA 患者の疼痛改善に有効である可能性を示唆し、単純 X 線所見においても半年以降で効果を示す可能性が明らかになった。